



開物成務

令和元年 6月 4日 (火) 発行

校長 津田 将美

校長室へ ようこそ

学校探検で2年生が1年生を案内しているときの事です。校長室を2年生に紹介されて、目を輝かせながら歴代の校長先生方の写真に見入っている1年生が、帰り際に質問しました。

「また、来ていいですか？」

「いいよ。休み時間だったらだいじょうぶだから、おいで。」

「は〜い！！」

元気に帰って行った1年生、2年生の後姿を見送りながら、本当に遊びに来てくれるといいな、なんて期待を膨らませていました。



それからしばらく訪問はなく、その時の期待も薄れかけていた頃のことです。突然2名の1年生が遊びに来てくれました。約束通り、休み時間に、入り方の決まりを守って…。

ノックをして、しっかりと自分の名前を名乗ってから「失礼します」と笑顔で入ってきたその子たちから、学校がとっても楽しいというお話を聞きました。

「何が、楽しいの？」

「う〜んとね、お勉強。算数が好きなの。」

「もうね、たし算、ひき算もできるんだよ。」

「それと、給食の時間も楽しい。」

「私ね、ピーマンが食べられなかったんだけど、給食で出ておいしかったから、食べられたの。」

「私はね、トマトがきらいだったけど、スープで出たらおいしくて、食べられるようになった。」

「うわあ、すごいね。開成小学校の給食は、本当においしいもんね。」

「それとね…、」

話は、どんどんつながります。

とても素敵な笑顔でお話をしてくれたので、こちらまで笑顔になりました。そして、子どもたちのために一生懸命教材研究をする先生たち、よい姿勢で取り組んでいる学習、おいしい給食を一生懸命考える栄養教諭の姿、給食室で子どもたちのために心をこめて調理してくださっている調理員のみなさん…、いろいろな風景が心に浮かんできました。

1年生の視点は新鮮で、感動にあふれています。おかげで、私も開成小学校の良さを再確認することができました。

翌日には、4名の訪問、その翌日には6名と、人数が少しずつ増えていき、休み時間の校長室は俄然にぎやかになってきました。先日はたまたま休み時間にお客様がいらしていたのですが、そのことを伝えると、いつも通りきちんとクラスと名前を名乗ってから「失礼しました」と言って帰って行きました。その態度をお客様に褒めていただきました。何だかとても、いい気分になりました。これもまた、開成小学校の自慢のひとつになりました。

校長室訪問は、ちょっとしたブームのようなものなのだと思いますが、もう少しこのブームが続いてくれるといいな、なんて思っています。



4つのすてきさん

か

考えを磨き合う子(知)

- 主体的、対話的で深い学び
 - ・子どもが「問いかける」質の高い授業
 - ・交流授業を活かした高め合う姿勢の醸成
- 社会に開かれた教育課程
 - ・地域と開成小の歴史を生かした **体験的学習・問題解決学習**
 - ・外国語教育の実践と推進
- 基礎・基本の確実な定着
 - ・良い姿勢で正しく学ぶ習慣作り
 - ・読書、自学自習の習慣化

開成小学校
グランドデザイン
より
PTA総会資料
参照

PTA総会資料で周知させていただいた今年度のグランドデザインの中には、4つの「すてきさん」があります。「考えを磨き合う子」「生き生き活動する子」「心も体も成長し続ける子」「いのちを大切にしている子」です。

新学習指導要領完全実施を来年度に控え、「主体的、対話的で深い学び」に向けた授業改善が求められています。少し難しい表現ですが、新学習指導要領の中には、「身に付けた知識及び技能を活用したり、思考力、判断力、表現力等や 学びに向かう力、人間性等を発揮させたりして、学習の対象となる物事を捉え思考することにより、各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方が鍛えられていくことに留意し、…」とあります。深い学びにつなげるための原動力は、やはり学習の対象にどう向き合うか、向き合わせるか、ということだと思います。体験的学習、問題解決学習（自ら問題を見つけ自らの追究意欲によって解決していく学習）はそのための大きな強みになります。

本校では以前から、このような学習を大切に多くの体験的学習を行ってきました。

今年度は、新たに円中の鳥海均様の田をお借りして、5年生が「田植え体験」をすることができました。子どもたちは、初めて入った田んぼの感触や田植えの作業そのものを楽しみながらも、米作りに対する疑問や農家の人の苦勞、工夫、願いなどに対する思い等を持つことができたようです。このような体験的学びから生ま

い

生き生き活動する子(意)

- どの子どもも主役になれる学級・学年集団づくり
 - ・明確なめあてを持って取り組む活動、行事の工夫
- 「あこがれ」の対象を育む関わり合いの推進
 - ・**上学年が手本となる異学年集団遊びの工夫と清掃活動の充実**
 - ・諸行事や特別活動等を通じた **自己肯定感を高める**取り組みの充実
- 明るく礼儀正しいあいさつの習慣化

れた子ども自身の問題は、強い追究意欲を産みます。その意欲が、お互いの見方、感じ方を共有しながら自ら解決していこうとする深い学びにつながるのだと思います。

多くの地域や保護者の皆様に支えられながら、体験的学習を進めていくことができるのは、本当にありがたいことだと感じます。

社会に開かれた教育課程の中で、今年度も「考えを磨き合う」力を育てていきたいと思っています。

先週の火曜日に、ピカピカ班清掃が始まりました。いつもは元気に遊んでいる昼休みの時間に班の顔合わせ、相談、清掃の仕方の確認等を行いました。遊べないことをがっかりする様子も感じられず、どのグループも前向きに話し合いを行っていました。下学年の子どもたちの表情からは、新しい仲間との清掃活動に向けてのやる気や期待が伝わってきます。そして、6年生が一生懸命世話をしたり、説明したりする姿からは、一番の責任者であるという自覚や誇らしさまで感じました。グループ数が多いので、4、5年生も先頭に立って「生き生き活動」を引っ張っていました。

このように あこがれの対象となるような上学年の存在は、下学年の子どもたちに「自分もこうなりたい」という願いを持たせます。そのことが 自己肯定感を高め、より良い自分にしていくことにつながる生き方につながります。

このような姿勢は、本校の子どもたちの伝統で、今後も大切にしていきたいものです。



あと2つのすてきさん、「心も体も成長し続ける子」、「いのちを大切にしている子」には次号でふれたいと思います。